宇久中だより2018

佐世保市立宇久中学校　学校通信
（平成３０年６月４号）
文責　校長　田雑　健
平成 30 年 6 月 29 日(金)発行

学校教育目標　：ふるさとを愛し、主体的に学習し、自らの判断で正しく行動できる生徒
めざす生徒像　：素直で心豊かな生徒　・　自ら考え、主体的に学ぶ生徒　・　強くたくましい生徒
宇久中生徒の５励行　：心のこもったあいさつをする　授業に集中する　生徒会活動や部活動に励む
大きな声で校歌を歌う　清掃活動に力を入れる

終わってからが肝心です

第１回定期テストが終了しました。どれだけ準備をしていても、テストは緊張するもの。終わって、ホッとした人も多いかと思います。

しかし、ホッとしっぱなしではいけません。学力向上のためには、テストが終わったこれからの取組が肝心です。丸付けがなされた解答用紙が戻ってきた時にどうするか？点数を見て喜ぶ、残念と悔しがる。それはそれでいいのですが、解答用紙の点数にばかり目が行き、宝の山である問題用紙を見逃していませんか。

そもそも、テストを作る側は、みなさんが大切なところ（内容や方法）をきちんと身に付けることができているかどうかをチェックするために問題を考えます。ですから、テスト問題は逆の視点から見た「重要な内容や方法のまとめ」なのです。もちろんテスト範囲の重要な内容や方法の全てではありませんが、優先順位としては高いほうが選ばれていると考えていいでしょう。その貴重な勉強のヒントが詰まった問題用紙をぞんざいに扱ってはいけません。きちんと保管して今後の自分の学習材料にしましょう。

また、テストの点数についてもよく考えましょう。同じ「７０点」でも、全ての範囲で広く薄く間違えて、あっちでマイナス２、こっちでマイナス３と点数を落としているのか、それとも特定の箇所で集中的にマイナス１０点と点数を落としているのか。ここをしっかり分析しておかないと、どんなに嘆いても点数は上がりません。自分の現状をつかみ、改善すべきところを明確にする。これは実は非常につらいことでもあります。自分の弱点を目の当たりにして平気な人はそうそういません。でも、これから自分の夢や志に向かって力をつけていかなくてはならないあなた方には避けて通ってはいけない道なのです。どうか目をしっかり開けて、解答用紙を見て自分の弱点と向き合ってください。弱点は言いかえれば「伸びしろ」です。そこを克服すれば点数が確実にアップするのですから。

もし、自分だけでやっていくことが難しいというのであれば、その教科の先生に相談してください。遠慮はいりません。ずっとこの学校だよりに書き続けていますが、**変えられるのは「自分のことと未来のこと」です。**自分自身のこれからの気持ちや努力で向上する余地は十分にあります。

テストを「自分を高めるチャンス」として捉え今後の「学び」に活かしてください。

点数が悪かったといって寝込んでいても進歩はありません

「学ぶ」とは自分自身への挑戦です。

４月～６月の重点
立場・役割の自覚 ―集団と個人―
○小中高合同行事、市中体等を通して

小中高合同海岸清掃にご協力いただき、ありがとうございました。

先週２１日（木）に実施いたしました小中高合同海岸清掃につきましては、多数の保護者、地域の皆様にご協力をいただき、誠にありがとうございました。

雨の心配をしておりましたら、当日はかえって熱中症を心配するような晴天となり、暑い中の作業となりました。幸い無事に終了し、海岸も美しくなり、夏本番を待つばかりとなりました。生徒も体調不良等もなく、無事に帰校し午後も元気に過ごすことができました。

「いのちを見つめる講演会」に行ってまいりました

この「学校だより」でも続けてお知らせしておりました標記講演会に２３日（土）に行ってまいりました。講師がテレビ等でおなじみの金澤泰子さん、翔子さんということで、大変な多くの方々が来館されており、さすがのアルカスSASEBO大ホールも１階から３階までが満席といった盛況ぶりでした（主催者発表で 1700 人）。

開会、講師紹介のあと、早速翔子さんが揮毫なさいました。**「共に生きる」と**墨痕鮮やかに力のこもった（という表現が正しいのか自信がないほどの門外漢です）書を披露してくださいました。

その後、翔子さんへのインタビューをはさみ、泰子さん翔子さんお二人のお話しというかやりとりをうかがいました。「一人暮らしをはじめて３年目です」ととてもうれしそうに語る翔子さん、泰子さんもそれを受けて「一人暮らし、自立できたことが素晴らしい」とその生活の一端と一人暮らしをはじめて翔子さんが変わられたことをお話しになられました。その後「ダウン症の娘とともに生きて　～「いのち」輝いて～」という演題のもと、翔子さん誕生から現在に至るまでのお話をうかがいました。生涯に一度の記念として開いた個展をきっかけに、その才能を認められ、さらに様々な縁に結ばれて活躍の場を広げておられる翔子さん。母親として厳しい現実にぶつかりながらも、翔子さんを支え、その才能を引き出してきた泰子さん。本当に素晴らしいお話を拝聴することができて、こちらも心洗われる思いでした。

ＰＴＡ研修会に参加してまいりました

２４日（日）には、市ＰＴＡ連合会主催の研修会が開催され、参加させていただきました。

前半は研修ということで、５～６人のグループを組み、「ながさきファミリープログラム」のファシリテーターの方の進行で子育てに関わるテーマを話し合いました。最初はややぎこちない面もありましたが、時間が経つに連れ話も弾み、正直もう少し時間があればなあと思うところで終了しました。「ズバリ解決」という策は出なくても、こうして、ざっくばらんに語り合うということでも大きな効果があるように感じました。

後半は市ＰＴＡ会長をはじめ、教育関係の重職を多くおつとめになり、現在は市教育会会長をなさっておられる古賀　良一さんを講師に「親が変わればＰＴＡが変わる」と題しての講演をうかがいました。

「宇久の子どもは宇久で育てる」という思いに支えられ、いつも協力をいただいている本校ＰＴＡ、そして関係団体の皆様に改めて感謝の念を強くした一日でした。